

～風だより～

# こうのとりの

第2号  
2022.7.1

越前市エコビレッジ交流センター  
(公財) 日本鳥類保護連盟福井県支部

## 坂口の思い出

日本鳥類保護連盟福井県支部

顧問 林 武雄



坂口は私にとって、思い出の多い懐かしい土地です。国道八号線から峠を越え、トンネルを抜けると農耕地が広がり、集落が見えてきます。しばらく走ると坂口小学校、武生第二中学校坂口分校の校舎が見え、その前に変わった形？の建物が見えてきます。その名も「エコビレッジ交流センター」天体の観望所を備えています。建物は工夫をこらした木造建築、私はここを訪れると、田舎のおばあちゃんの家に来たような安らぎを覚えます。

坂口には、若い頃に友人と矢良巢岳に登山した思い出があります。山頂からは白山連邦や日本海も一望できます。秋になると空を渡るタカの群れや、北国から渡ってくるツグミやアトリなどの群れが見られます。初めてアオバトを見たのも、この山の林道でした。市街地から見れば、軽井沢のような高原地帯です。私はこの土地で、いつも、いやされてきました。車に乗らなくなって訪れる機会は少なくなりましたが、町にすむ人々にお勧めしたい保養地です。(越前市)

## 矢良巢岳登山

日本鳥類保護連盟福井県支部長

林 昌尚

朝から快晴で予想最高気温が二十七度の中、約二十名の参加者と一緒、エコビレッジ交流センターを九時前に出発。登山道に入る前、田んぼの上を旋回するサシバに遭遇、参加者の皆さんと観察することができました。登山道に入ると、スギや広葉樹の深緑の葉っぱが天を覆っているのが、鳥の姿はなかなか見ることができませんが、あちこちからキビタキやヒガラの囀りが聞こえてきました。約一時間半かかって山頂に到着すると、坂口方面の上空に早速タカのシルエツト・・・。望遠レンズの付いたカメラで撮影すると、翼が細めで長く、白っぽい姿を確認。手持ちの図鑑で調べてみても特定はできませんでした。(自宅に戻ってから確認すると「ミサゴ」であることが判明。)敦賀湾や丹後半島の先まで見える北西側に移動して景色を楽しんでいると、また上空を横切る影が・・・。最初はトビでした。しばらくしてまた大型の鳥の影が。今度はトビではありません、なんとそれは「クマタカ」でした。獲物を見つけたのか皆さんと見つめる中、急降下して行きました。昨年来、何度もこの場所に野鳥観察に通っていますが、「ミサゴ」も「クマタカ」も初めての出会いでした。

山頂でおにぎりを食べた後、下山にかかりました。途中にはヤマドリ「ドドドド」といったほろ打ちや、遠くでイカルの囀りなども聞かれました。登山道を下り終えると、またサシバが何羽も近くを舞っていました。

今回は、前回(昨年十月)と比較してもゆったりしたペースで、鳥の観察のみならず、季節の花々や樹木、トンボやへびなど坂口地区の豊かな自然を満喫しながら楽しい山登りが出来ました。参加者の皆さんも一様に楽しんでいただけたのではないのでしょうか。(越前市)

「新緑の里山ウォーク」坂口 五月七日開催



# 越前市坂口地区のコウノトリ情報



昨年、無事に3羽のヒナを孵し、無事3羽とも大空に返したななちゃんとイチローくんペアに、今年は4羽のヒナが誕生しました。

ななちゃんは、昨年秋以降も頻繁に坂口地区に戻って来ていて、「今日も里帰りしています。」等と来られた方にご説明していました。イチローくんは、というと、「もう、坂口のこと忘れたのね。」と思うくらい、いろんな所でいろんな個体と一緒に行動していて、地元では、「遊び歩いている。」「男はあかな〜」と評判でした。そのイチローくんも今年2月1日には戻って来て、ななちゃんと一緒に採餌行動、その内、巣台に伏せるようになり、見事、また繁殖に成功しました。

足環装着も無事終了し、メスが2羽、オスが2羽、ということも判明。早速、坂口校を始め、エコビレの来館者の方たちにも協力を得て、愛称も決まりました。

6月21日(火)にはメス2羽、25日(金)には



足環装着作業 [5月27日(金)]

オス2羽が巣立ち、「順調だね。」と思われるかもしれませんが、メスが1羽、有害鳥獣対策用電気柵に羽根を絡ませて、ケガをするというアクシデントが発生しています。風切り羽根を数枚やられているので、今年は大空に飛ぶことはもう無理かもしれません。命に別状はないとのことなので、いつの日か大空に飛んでくれることを祈っています。

(野村)

## コウノトリ情報 (パート 2)

坂口地区内に  
人工巣塔にて



福井県内において、今年は12羽のヒナが孵っていて、順調に巣立っています。

今年生まれたヒナは、小浜市で4羽、越前市で7羽、そして、今年初めて、鯖江市吉川地区の人工巣塔で1羽、全て巣立ちを迎えました。

福井県で「コウノトリ」をシンボルとした保全再生の取り組みがスタートして20年近く、ようやく形になってきたような気がしますが、まだまだ問題だらけです。

コウノトリを野生復帰させるという取り組みの

中で、亡くなっていくコウノトリの死因のほぼ半分が、人間が作り上げたもの(有害鳥獣対策資材、電線、鉄塔、電柱、交通事故、誤射、等々)だそうです。それが原因でまた絶滅しないように、野外繁殖を進めていく必要があります。越前市内の子どもたちには4年生になると「市内施設めぐり」のコースの中にエコビレが入っていて、コウノトリについて学習する機会があります。同じことを言い続けることも大事だと思っているので、学習の場が無くならないことを願っています。

(野村)



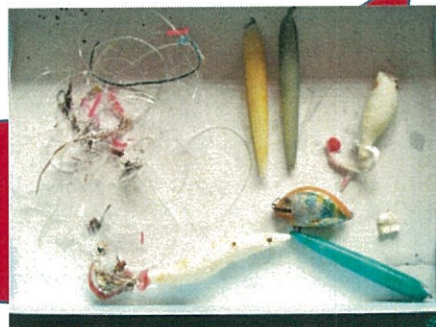
(産卵はするのですが、3年続けて孵化することが無かったゆめちゃん、みほとくんペア)  
[越前市中野町(白山地区)巣塔にて]





## 釣糸回収

6月6日(月)、例年の活動場所とは違う海岸に、釣糸回収に行ってきました。雨がしとしと降る中、合羽を着て活動すること30分。釣糸を始め、浮きや疑似餌など、わずかな時間にこんなにあるものかと驚きました。その他、漂流物やたばこの吸い殻も回収し、例年のことながらごみの多さにショックを覚えました。



## 東大の学生実習受け入れ

6月15日(水)~18日(土)、エコビレと地元の振興会の環境部会と共催で、東京大学の学生実習の受け入れをしました。

部会の出番は、耕作放棄地をビオトープにするために、取水口と排水口の設置や、畔塗りの指導。最終日、「活動成果発表会」にも参加し、人手不足と保全再生とどう向き合っていくかも話題に出しました。エコビレでは今後5年間実習生の受け入れをして、耕作放棄地をビオトープにすることによって、生きものや植生がどう変化していくのか、1年に1回だけですが調査し、データを積み上げていただきます。また、地元の子どもたちによる「坂口エコメイト」と観察会を続け、関わっていきます。



無事にビオトープ3号完成!



取水口が一番大事



成果発表会では地元の方もご意見を



## 支部の部屋

### 「一瞬の出会い」

一年中、色々な種類の鳥が飛んでいる毎日。

まずは目の前にいる鳥を撮るところから始め、林顧問にお会いするたび写真を見せ「この鳥は〇〇。こんなものを食べたり、こういう習性がある…」と教えていただき、名前を覚えていきました。まだ声だけで判別はできない事の方が多いですが、以前よりすぐに鳥の姿を見つけられるようになり、身近にこんなにもたくさんの鳥がいる事に驚かされています。

そんな中、今年の4月初旬、いつものようにエコビレ東側のビオトープ周辺を見ていると電柵の杭の上に、明らかに今まで見たことがない鳥が止まっています。慌ててシャッターを切り、何枚か収めてるうちに飛んで行ってしまいました。すぐに画像を確かめ、インターネットで検索したり、林支部長や林顧問にも確認したりして、この辺では珍しい「ギンムクドリ」という鳥であるという事が分かりました。1~2分ほどの一瞬の出会いでしたが、貴重な体験になり嬉しかったです。

これからも鳥だけではなく、たくさんの生き物との出会いを楽しみにしながら関わっていきたいと思います。

エコビレッジ交流センター指導員 田川



コゲラ



コムクドリ



ギンムクドリ

### 編集後記

先日、エコビレと県支部との共催事業として、「私たちの身近に棲む鳥や生き物たち」という演題で、林支部長に話をして頂きました。参加者は思いのほか少なかったですが、いろんな撮影秘話を聴くことができ面白かったです。

「異常気象」「有害鳥獣」「地球温暖化」「ごみ問題」・・・私たち一人では解決できないものばかり。「環境問題」と冠をつけてしまうと、なかなかハードルは高そうですが、まずは身近な鳥や生き物たちに興味を持っていただくことから、環境問題について考えていただくきっかけになればと思います。皆様のところではいかがでしょうか。夏は始まったばかり。どうぞお体ご自愛下さい。

(野村)

越前市エコビレッジ交流センター

915-1225 福井県越前市湯谷町 25-25-2

TEL/FAX 0778-28-1123

E-mail [info@ecovilg.jp](mailto:info@ecovilg.jp)

URL <http://www.ecovilg.jp/>